

代々木高等学校 学校経営の目標についての自己評価

2022（令和4）年4月～2023年3月

1 学校教育目標（目指す学校像）	
<p>○生活背景や学習歴及び進路希望等が多様な生徒が安心して安全に学ぶことができる学校</p> <p>○基礎基本の知識・技能や主体的に課題解決に取り組もうとする意欲等、これからの社会で生き抜いていくことができる学力を身に付けることができる学校</p> <p>○地域の良さを教育に生かすとともに持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する学校</p>	
2 現状と課題	
(1) 生徒について	<p>○基礎基本を自分のペースで確実に定着したいと考えている生徒、大集団の中で学習することが困難な生徒、毎日通学することは困難であるが、限られた日数であれば登校でき、提出物等について計画的に学習に取り組める生徒、さらに高校3年間を目標達成のために有効に活用したいと考えている生徒が増加しています。</p> <p>○進路について真剣に悩み相談を求めている生徒が増えています。</p> <p>○宿泊集中スクーリングでは様々なふれあいや出会い、気づきあいがあり、成長を実感して帰途につく生徒の声が多く聞かれます。</p> <p>○2022年度末在籍生徒数は 名（昨年 名）で、出身都道府県は全国32都道府県となっています。</p>
(2) 教職員と組織について	<p>○県内の生徒を対象として行われる年24回の通常スクーリング、年間13回実施される宿泊集中スクーリング（その他「東京SC、東海SC、大阪SC」でも実施）、レポートの添削、その間を縫って行われる個別スクーリングや補講等、教育計画は過密となっていますが、生徒の多様なニーズに的確に対応するとともに、より一層充実した学習指導・生徒指導及び進路指導を実施するために指導の工夫と改善が必要です。</p> <p>○教員増となり組織の一層の充実が図られましたが、初任の教員については言うまでもなく、経験豊かな教職員についても、各種の教育的な課題についての見識を深めるとともに課題解決に向けての実践力を身につけるため、各種の研修の実施に努める必要があります。</p> <p>○面接指導及び添削指導等をより一層適切に行うために非常勤講師の業務内容を文書等で明確に示す必要があります。</p> <p>○多様な生徒の実態やニーズを的確に踏まえつつ教育目標の実現やさらなる生徒増を目指して、組織力の強化が必要です。</p>
(3) 学校の在り方・教育の特色、地域との連携について	<p>○学校法人立学校の組織体制を確実にするために、これまで以上により一層適切な組織編成を進める必要があります。</p> <p>○学費の変更や法人化に伴う変更事項・確認事項について、主旨や具体的な内容等を保護者や関係機関等に丁寧に説明し周知する必要があります。</p> <p>○志摩スクーリングでの真珠の学習やシーカヤック体験等本校の特色ある教育内容や教育方法についてさらに充実を図り、生徒が行きたい学校、保護者が行かせたい学校、地域から信頼され必要とされる学校づくりを一層推進する必要があります。</p> <p>○学習等支援施設との連携協力関係や業務内容等については、精査を進めていますが、学校法人化を進めるにあたり、教育活動の年間計画や学習等支援施設との打ち</p>

	合わせ（訪問を含む）の充実を図り、さらに適切なものとなるような措置が必要です。		
3 中長期的な重点目標			
（前述の課題を踏まえて）			
○特色ある取り組みについては一層の充実を図るとともに、本校の魅力の一つである個に応じた丁寧な指導の充実を図る等、学校の魅力化や教育力の強化を進め、教育の実態を的確に発信し、ニーズと提供できるサービスの整合をめざして、学校のブランド力の強化を目指します。			
○効果的な生徒募集策による入学生の安定確保及びより一層充実した教育活動を実施するためのバランスのとれた予算編成と執行等、学校経営の安定化を目指した具体策の検討と実施を図ります。			
○広域通信制のメリットを生かした教育の充実と地域社会への貢献を目指して、行政の協力と理解を得ながら学校法人立学校の組織体制づくりを計画的かつ確実に進めます。			
○教職員研修については、初任者を主な対象とし、特に教育の現状と課題、これから求められる指導・支援のあり方等を中心に実施します。また、研修を通じて、効率的でかつ生徒の指導の一層の充実に結びつくような、効率的で効果的な指導体制や指導方法等の研究に努めます。			
4 本年度の計画（2022年4月～成果と課題は年度末に記載）			
項目	取組内容・指標	結果と自己評価	成果と課題
(1)生徒について	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学力のより一層確実な定着・伸長を目指して、計画的なレポート提出や積極的な面接指導への参加等の指導を進めます。また、これからの社会を生き抜くために必要となる力の育成を目指して、本校ならではの特色ある教育内容や教育方法の開発と充実を努めます。 ・面接指導や添削指導等の学習活動を通じて、これからの社会を主体的に生き抜くために必要な力の一つとされるコミュニケーション力の育成に努めます。また、生徒の自己肯定感や役立ち感等を引き出す学習活動について研究し、生徒が「探究」しようとする面接指導・添削指導等をデザインします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も月に1回レポート学習会を実施し、基礎学力の定着を図っています。 ・生徒からの提案で、「Local Fish Can プロジェクト」に参加しています。生徒同士コミュニケーションをとりながら、試行錯誤を重ねつつ学んでいます。 ・本校の各学年クラスルームにおいて、生徒に「自己紹介カード」を記入してもらい、お互いを知ってもらうきっかけにしました。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路意識を醸成するとともに希望進路の実現を図るために、進路希望に係る一斉調査を年2回(5月と2月)実施します。 ・部活動への積極的な参加を促します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月～6月にかけて、卒業生にお知らせと指定校等希望調査を実施しました。 ・昨年度から開始しましたが、生徒の積極的な参加が見られるようになりました。 	
<p>(2) 教職員と組織について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒の現状と課題、これから求められる教育の方向性、危機管理</u>の3つをテーマにした教職員の研修会を年3回以上実施し、各人の力量の向上、組織力の向上を図ります。 ・添削指導の報告課題(レポート)の学習を通じてより一層確実に生徒が学力を身につけることができるよう、また大量のレポートをより一層効率よく確実に採点し返却できるようにするため、インターネットを活用した新たな新教務システムの導入について研究を進めます。 ・学校組織のあり方について、縦割りの業務推進ではなく、教職員が日常的に課題や成果等について情報交換するとともに、各人・各分掌の進捗状況を確認しながら業務が遂行できるよう声かけ、確認、OJT等の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回職員会議の後に校長研修を実施、すでに3回ほど行いました。少しずつ学びを深めています。 ・令和5年度から実施されるレポート等の作成を始めています。分かりやすく、なおかつ新学習指導要領の主旨に沿った形で、工夫しながら作っています。 また、本校だけではなく、東京、大阪でも添削を始め、迅速な処理を心がけるとともに、新しいシステム構築に向けて協議を行っています。 	<p>。</p>

<p>3) 学校の在り方・地域との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の指導や支援及び通信教育にかかる業務や協力・連携関係については、学校ができることと学習等支援施設ができること等を明確にし、文書等による取り決めに加え、各学習等支援施設を訪問し、情報交換と確認をしながら確実に業務提携・分担を進める必要があります。 ・三重県私学課の指導のもと、学則変更などの申請を行う。旧成基小学校（代々木高等学校新校舎）については、生徒の健康と安全を最優先にしながら、地域の声も踏まえて、利活用を進めます。 ・通信制教育の一層の充実に努めるとともに本校教育の魅力をより一層効果的に発信し、本校への入学を希望する生徒の安定確保に努める必要があります。 ・年々、不登校経験者や全日制の仕組みになじめない生徒が多く在籍するようになっていきます。 ・コロナウイルス感染症が年度当初より急速に全国に拡大する状況となり、状況を見極めつつ、生徒の健康安全を最優先に感染症防止対策を講じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習等支援施設には、担当者がすでに訪問し、必要な説明等してきました。文書等による取り決めまでは間に合わず、今後の課題となっています。 ・三重県私学課の指導の下、関連法規の変更に伴う申請および学則変更の申請を実施しています。定員、新規面接等指導会場について、申請中です。 ・学校要覧、学校パンフレットを新たに作り、当校在校生や卒業生の出身中学校等に個別訪問し、生徒の状況等をお伝えしています。 8月に学校説明会を実施する計画をしています。 ・本校の生徒及び教職員から感染症発症者は出ていませんが、コロナウイルス感染症拡大防止及び、大地震等の災害対応の観点から、改めて学校での危機管理の在り方について検討する必要があります。 	
-----------------------------	--	--	--